



正しい企業倫理性と企業経営

令和7年3月4日

黒田インターナショナル コンサルティング LLC

黒田 毅

利益構築の健全性が、企業の努力とともにその企業倫理性における判断を経て、企業経営の健全性を与えるという判断を提示したい。

これらは企業の高い倫理判断は、製品の価格や向上、適正な利益環境を、構築する基盤であることは正しいのである。これらはマネーゲームという現実に対して、日本的な風土であり、それらが正しい企業の選択であることは、正しいと考える。

これらは、現実における MBA における効率性の追求という現実とともに、企業における双極の新たな要求であることは正しいのである。これらデータにおける適正化は真実であるが、善という風土を企業が行うことは他方にける要求であることは誤りでないのである。

これらは高い倫理判断が、企業を優れたものとするという判断であり、効率性を追求する MBA システムとともに、企業がその強さと優れた企業風土を得ることは、倫理的判断が、それら効率的な企業経営とともに、優れた現実の創出を与えることができるためである。

これらは時代進歩性の頂点であり、企業の経営判断は、それら最も優れた倫理的判断において優れるものであるということは正しいのである。

これら正しい企業風土は、その創造性を否定するものでないのであり、それら創造性は時代性における飛躍を可能とできるのである。

これらが絶対的な企業運営の健全性を与えるものであることは留意すべきである。他方においては、マネーゲームという現実が存在するのである。

これらは企業経営が、RSC（責任ある社会的企業）という必要性を有することにおいてもその判断を求めることができる。

これらがゼロエミッションやサーキュラーエコノミーという優れた基準において、善という経営と高い効率性の達成における企業の飛躍と可能性の実現などが、新しい時代環境とともに、企業のより優れた現実の創造を実現できるのである。